

氏名 下沖 収

所属 岩手医科大学附属病院

役職 医師卒後臨床研修副センター長

これまでのキャリア

岩手県九戸村出身、岩手県立福岡高校から自治医科大学へ進みました。

卒業後は、へき地・地域医療の義務履行の中で外科医として修練させていただきました。義務履行終了後に岩手医科大学で研究に関わり学位をいただきました。その後は岩手県立久慈病院の外科で幅広く診療を行う傍ら臨床研修カリキュラム責任者として多くの研修医の皆さんとも関わりました。岩手県立千厩病院の院長を経て、2017年から岩手医科大学の総合診療科起ち上げ、現在に至ります。2018年から2021年まで岩手医科大学附属病院医師卒後臨床研修センター長も務めさせていただきました。

私のもとではこれが学べる

総合診療、地域医療、病院感染管理などは現在進行形ですが、その他に一般外科、緩和ケア、救急医療などはライフワークのひとつとしておりますので、その考え方などについて共有できると思います。

教育にける思い

「少しでも先に医者になったものは、後輩を指導する義務がある」。これは私が研修医だった頃、当時の岩手県立中央病院研修科長であった樋口紘先生（故人 元岩手県立中央病院長）からいただいたお言葉です。ずっと胸に刻みこここで参りました。医師に限らず、どの職種であっても後輩医療者を指導し育てる意識、後輩は素直に聴く耳と遠慮なく聴ける環境が、よりよいチームを築いていく上で欠かせないものと思っております。

医学生へのメッセージ

何を基準に研修病院を選ぶか、人それぞれだと思います。都市部、有名病院、カリスマ指導医、給与・待遇などなど。でも、指導医の熱意や病院の雰囲気とともに地域の人々の温かさもぜひ観て欲しいです。臨床研修医は患者さんや地域の人々に育てていただくものでもあります。手前味噌ながら、岩手は温かい人が多いとよく言われます、また人を大きく育てる土壌が岩手にはあります。イーハトーヴ病院群では研修医のやる気さえあれば、求める以上の研修環境が手に入ります。それと同時に温かい人情の中で、人間性溢れる医師として成長できる場でもあります。ぜひ、岩手県での研修を検討してみてください。